

## 「サポーターズカンファレンス」議事録

日 時：2023年5月20日（土）17:00～19:00

場 所：ユアテックスタジアム仙台 インタビュールーム、Web会議システムZoom利用

ゲスト

【リアル参加】：株式会社ベガルタ仙台：板橋社長、清水取締役、北畠取締役、山崎アカデミーダイレクター、磯田経営企画部長、大野営業部長、庄子広報・DX推進部長、門間事業・運営部長、片桐運営担当部長

【Web参加】：東海林強化部長

出 席：サポーター 45名

事務局：市民後援会 運営委員、アシストスタッフ

司 会：市民後援会 理事長 佐々木、市民後援会 事務局長 三船

(司会)

先月も開催したが、社長交代に伴い、今月も開催できたことをうれしく思います。

(佐々木理事長)

本日はお集まりいただきありがとうございます。2時半ごろ、チームバスとすれ違いメールを送った。まず初めに板橋新社長からご挨拶をいただきます。

### **板橋社長からの挨拶**

- ・4月25日に就任した。この会社は非常に特殊な業態だと感じている。そのことを理解したうえで対応していかなければならない。一方で、一般企業にあるエレメントを埋め込むことも重要。会社の運営の安定の確保が命題と感じている。
- ・私から経営に関する質問に答えたい。まず、社長就任で実施したいことについては健全経営の基盤づくり。当クラブは何度も経営危機に陥りその都度みなさまからの協力をいただきながら乗り越え、来年30周年も迎えようとしている。プロサッカーチームの運営会社という特殊性は前提であるが、健全経営のためのマネジメント要素は、他分野の事業体と変わらない。しかし努力だけでは、なんともならないこともある。コロナの影響も受けたことから、今後の安定経営が課題と認識している。強化面へ追加の費用を投資しても結果が伴わないこともある。設備管理・固定費に加えてチームの成績によってスポンサー収入や入場料収入が変動するので、市民クラブとして安定的に財源を確保していくことは難しい。結果を出すために他クラブの事例を学びつつ、短期的には競争、中期的には育成の、両方のバランスを保つことで長期的な安定経営につながる。地域性を考慮したうえで強み弱みを把握し運営をしていく必要があると考えている。

### **事前質問に対する回答**

「経営」

(磯田部長)

- ・（チーム人件費について）人件費が、Jリーグの発表資料によるとJ1で平均が23億円、J2が6.6億円。当クラブは11億円とその中間地点。20億円までまだまだ努力が必要。21年に発表した中期経営計画にある通り、事業規模を35億円までもっていき、少しでも強化費をJ1平均へ近づけられるよう、あらゆる手で収入を上げていきたい。クラブの売り上げの半分がチーム人件費なので傾向がどのクラブでも見られるので母数を上げ、チーム人件費を増やしていきたい。
- ・（不祥事の調査について）不祥事などの事案には、過去に大きな失敗をしている。真摯に向き合い、自分たちで限界を決めず、場合によっては第3者も交えて対応し、クラブの知見のみで判断を誤らないようにしたい。
- ・（選手ロッカーについて）現在はクラブでできる範囲で、試合時のタペストリーやカーペットなどロッカー前をゴールドに装飾しているところですが、根本的な躯体の部分には手を付けられていない。スタジアムの長寿命化計画に合わせてクラブとしても要望は書面で提出はしております。費用面の問題もあるため、直ぐに取り組める段階ではないことをご理解ください。
- ・（サポカンの開催について）市民後援会とは定例会を設け、常にクラブとコミュニケーションをとっている。シーズン前後、最中と様々な事象がある中で、市民後援会がそれぞれのタイミングでサポカンの開催を求められると想定。その際にはしっかりと向きあい、開かれた市民クラブとしての対応をしていきたい。

（佐々木理事長）

板橋社長への事前質問として真っ先に取り組みたいことはなにか、決断の根拠、選任の経緯についてというのが、もう少し詳しく答えていただきたい。

（板橋社長）

- ・真っ先に取り組みたいことは健全経営の基盤づくり、決断の根拠については、度々繰り返されてきた経営危機を招かない、長期的視点に立った、足腰の強いベガルタ仙台を作る。
- ・社長人選の経緯については要請を受けて着任した立場。選任の経緯には携わっていない。

（佐々木理事長）

チーム人件費について総予算と人件費のどちらか。

（磯田部長）

チーム人件費のこと。

（佐々木理事長）

よく混同されるが、チームの人件費、強化費、総予算がそれぞれあるということですね。

質疑応答

なし

## 「営業」

（大野部長）

- ・（スポンサー営業について）ここまでは新規でプラチナスポンサーを2社獲得できたことが特筆すべき成果。ユニフォームスポンサーについては引き続き獲得に向けて動いている状況。

スポンサーについては、首都圏などの大口の協賛獲得はもちろんだが、地元のスポンサー社数の拡大も同じように重要と考え取り組んでいる。地元スポンサーの社数を増やすことで協賛収入の足腰を強くするとともに、スタジアム来場にもつなげやすく興行収入を増やすことにもつながるので新規協賛の獲得を積極的かつ継続して行っていく。

また、代理店を通じた獲得も促進するため、商材ができる度に情報発信とご案内することを仕組化し、各種スポットの協賛企画なども今後展開し、積み上げを図っていく。

- ・（飲食売店について）売店や出店事業について人員の増強や販売品目を検討する。固定売店の臨時増床など出店の面を拡げることができないか検討しており、可能と判断できたものは順次展開したい。
- ・お褒めの言葉もたくさんいただいております、毎試合頂戴している来場者アンケートなども参考にしながら、出店誘致や企画を実行するよう努める。

質疑応答なし

## 「事業」

（門間部長）

- ・（個別案件について）15、19、20、21、24は別途検討します。
- ・（エリア設定、席種設定等について）サポーター応援エリアの縮小は現時点では予定してない。

1つの席種で複数の価格設定をすることは可能だが、1試合で登録できる席種や価格の数に限りがあるのですぐには実施不可。来年度に向けて検討したい。

ビジターの席数に関しては販売状況に応じて拡張している。

山形戦以外でもゴール裏ビジター席が完売となるような試合では状況を見て拡張していきたい。

- ・（年間チケットの座席変更について）観戦状況が悪い場合はチケットインフォメーションに問い合わせいただき席振り替えなどの対応を行う。
- ・（山形戦のプロモーションについて）山形戦は注目される1戦だが、イベントなどで盛り上げるのではなくサッカーで勝負したいという意図があったので、イベントテーマ的なものは控えめに行った。
- ・（招待事業について）試合によっては大規模招待なども行う事はあるが、招待事業は計画的に行い頻繁に招待にならないようにしている。

（佐々木理事長）

- ・最後の招待の質問については招待事業が増えると年間チケットの方が不利益になるという趣旨かと思う。

（門間部長）

- ・購入者が増えるような施策を行い、バランスをみながら招待も行う。年間チケットの方が不利益にならないように配慮しながら行っていく。

質疑応答なし

## 「運営」

(片桐担当部長)

- ・ (先行入場について) シート貼りか、抽選システムかアンケートを行い結果を踏まえて検討する。
- ・ (自由席の過剰確保について) 未就学児でも席を利用する際はチケットが必要な運用。事前の告知と現地での席詰め案内を行う。
- ・ (観戦ルールマナーについて) ビジョンでの告知、現場での声掛けを行う。全箇所には人員を配置することは困難。引き続きみなさまの協力をお願いしたい。
- ・ (ファンサービス解禁について) 選手のサイン会、撮影会を行った今後も選手と触れ合えることを増やしていきたい。

質疑応答なし

## 「広報」

(庄子部長)

(個別案件について)

- ・ ご意見のとおり、担当でも課題と認識している。1月生まれの方についても他の月と同様に動画メッセージを発信していくよう改善する。
- ・ ベガッ太の試合前、社長定時連絡ツイートが無くなったのは、佐々木前社長とベガッ太の関係性によって生まれたコンテンツなので、シンプルに現状は実施してないだけ。指示や何かあったわけではない。

(誹謗・中傷の防止について)

- ・ SNSでの当クラブへの誹謗中傷で心を痛める人、発言することで巻き込まれる人がおり、申し訳なく感じている。ミュート、ブロック、通報など、利用しているサービスの機能を活用して欲しい。
- ・ クラブでも実際にリスクマネジメント企業に相談したり、通報しているケースはある。ただし、こういったやりとりがショーになってしまうと良くない。公表については慎重。
- ・ TWは、自由に意見が交わされるものだと思う、我々もポジティブなもの、ネガティブな内容いづれもクラブがよくなるヒントだと思い真摯に受け止めている。が、度を越えた投稿、誹謗中傷はクラブにとって少しもプラスにはならない。プロだから何を言われてもいいのか、プロには何を言ってもいいのか、投稿ボタンを押す前に考えてほしい。

質疑応答なし

## 「地域連携」

(清水取締役)

- ・ (黄色いランドセルカバーについて) 贈呈を検討していたが、既存の実施団体等との調整が難しく断念した。クラブでは、昨年は交通安全ステッカー、今年は交通安全キーホルダーを県内の小学校の新入学1年生約6万名に贈呈した。今後、まずは泉地区の子どもたちのランドセルカバーの提供の可能性について関係団体等と協議していきたい。
- ・ (ホームタウン応援選手の活用について) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、選手をエンタメ面で使用することに関しては積極的な提案ができない状況であった。今後はイ

ベントへの積極的な参加やスタジアムでのブース出店の際の応援選手の参加などを実施していきたい。

- ・（自治体との取組みについて）昨年、シーズン後に宮城県内全35自治体で、選手訪問を実施し、子どもたちと交流を行った。今まであまり関心を示していただけなかった自治体も、関心が高まったという感覚を持っている。クラブとしては、全ての自治体とのフルでの取組みは難しい。現在6つの自治体と連携協定を締結しているが、中長期計画として年4、5自治体とSDGs等を通じた連携協定を締結していきたい。
- ・（今後のホームタウン活動の在り方について）チームを応援してもらう機運の醸成はもちろんだが、Jリーグが進める「シャレン！（社会連携活動）」を通じて、各自治体が抱えている地域課題等をクラブが一緒になって解決できるよう取り組んでいきたい。
- ・（トップチームのチーム結果以外で求められるものについて）選手の社会貢献活動と考えている。今後も可能な限り、選手と協力しながら、「可能な限り自治体に出向いていき、違った側面からの価値を創出していきたい。

質疑応答なし

## 「強化」

（東海林強化部長）

- ・本来であれば北野統括部長が回答する場だが別件があり代わりに東海林が回答する。また、明日大宮戦を控えているので大宮からzoomで参加している。  
（ここまでの振り返り）
- ・前回のカンファレンスでも話したが、昨年シーズンはプレーオフ進出が叶わなかったため、早い時期から今シーズンの編成の準備を進めた。ベテラン・若手・地元の選手などのバランスの取れた編成を行うことができた。しかし14節までの結果は思うように勝ち点が拾えず、みなさまに不安やご心配を与えてしまっている。
- ・特に水戸戦は、結果はもちろん内容も良くなかった。雨のなか応援してくれたサポーターに対し大変申し訳ない思い。試合の入りは悪くはなかったが、その後水戸に押し込まれた。選手の運動量やポジショニングが劣っていた。その修正を明確に行ったうえで、今後も戦っていく。
- ・これまで失点16点（16節時点）だが失点の時間帯が悪い。得点力が低いと感じている。90分を通した集中力を高め、試合の立ち上がりや試合の終盤を乗り切ることが大切。例えば守備面は、林選手を中心に意思統一して結果に繋げたい。  
（これからの取組みについて）
- ・2位以下は混戦している。仙台のスタイルを貫いて戦い課題を改善していく。選手・監督への評価を試合ごとに行い振り返りを継続的に行っていく。大宮戦に向けてモチベーションを高く持って3連勝を目指す。プレーオフ圏内に入り、自動昇格をつかみ取れるように勝ち点を積み上げていきたい。
- ・夏の補強についてはチーム状況を踏まえて検討している。現状は負荷の高いトレーニングを行っているにも関わらず怪我人が少ない。選手の頑張りやスタッフのケアに感謝している。いい競争をしっかりとっているので、出場機会の少ない選手がスタメンを脅かす可能性も十分ある。

- ・山形戦でポゼッション率を上回ったこと、熊本戦は、前半のATに約2分半ボールを保持できたことなどから成果がでていていると感じる。中山選手、ホ ヨンジュン選手、遠藤選手などのFWの活躍を期待している。
- ・キム テヒョン選手が9月のアジア競技会に選ばれる可能性がある一方で、センターバックの補強を検討する可能性は高い。仙台大学の石尾選手についても戦力として考えているので仙台大学と調整していく。J1からの育成型期限付き移籍も模索しているのでルヴァンカップなどの視察や情報収集を行っている。

(佐々木理事長)

目標設定に変更はあるのか。

(東海林部長)

J1昇格、優勝の目標を変えるつもりはない。

質疑応答なし

## 「アカデミー」

(山崎アカデミーダイレクター)

- ・(スクール校によるバラつきについて) スクール校によって様々なバラつきが生じているのは把握している。ハード面では各場所によって環境にばらつきがあるが限界もある。ソフト面では担当コーチの指導レベルの均一化・さらなる向上といったところは常に図りたい。
- ・(トップチーム選手の訪問について) 多忙なスケジュールの合間を縫って選手本人が自発的に行っている。この計らいをアカデミーとして断るようなことはしたくないと考えている。一方で場所によってその差が生じることはご了承いただきたい。コロナ禍によって現在中断しているスクールへのトップ選手派遣は今後考えていきたい。スクールの現状として、2020年のコロナの影響により、一時期、スクール生が減少することも見られたが少子化の影響もありながらも、昨年からスクール生は増加傾向にある。スクール出身のトップチーム選手として、ユースから昇格した小畑裕馬選手、神戸から移籍加入した郷家友太選手、ベガルタ仙台アカデミー出身で阪南大から今年加入した工藤蒼生、産業能率大菅原龍之介などのほか、スクール出身の選手がトップチームで活躍している実績もある。スクールはサッカーを始めるきっかけ、習い事としての側面に入っている方もいるが、ベガルタ仙台のサッカースクールの魅力としてトップチームまでの道筋が実績としてもあることもこの地域における他のサッカースクールとの大きな違いの一つでもある。このあたりもPRできる点として訴求していきたい。活動の質を上げていくことと同時に保護者、参加者の声をしっかり聞いてサービス面も向上させていきたい。
- ・(トップチームとの連携について) 昨年2022シーズンからトップチームとアカデミーの連携は非常に密に取っている。それを実際に行ったのが、今年3月のジュニア選手からトップ選手まで全員参加によるGK合同プロジェクト。このようなアクションを行いながら、当然考えも擦り合わせてアカデミーからトップチームまでの一貫指導を達成していきたい。伊藤監督からはアカデミーに対する強い理解や協力を得られているので、今後も継続していくつもり。

- ・（ユースの現状について）東北プリンスリーグにおいて8節終了時点で首位。これは監督の木谷体制が3年目を迎え成熟してきていることが要因と捉えている。当然、昇格プレーオフ進出およびプレミアリーグ昇格を視野に入れ、来季以降戦う舞台を引き上げてトップにつながる選手を生み出したい。同時に選手個々の部分でも将来楽しみな選手たちがユースに入ってきてくれている。ジュニア・ジュニアユースからのボトムアップに加え、スカウティングも充実させながら、ベガルタアカデミーからユアスタで躍動する選手の輩出を目指す。

質疑応答なし

## 全体質疑応答（会場とオンライン）

### 【質問】

31人のメンバーで42試合を戦うことがハードだと感じている。

ユースや若手選手のメンバー外選手をトップレベルの練習試合から実施して強化して欲しい。

### 【回答】

（東海林部長）

練習試合については連戦以外は公式戦と同様に実施している。練習公開をしていないのでファンサービスも含めて公開に向けてフロントと協議していく。

若手の選手、ユースについてはクラブでしっかり育成を行っている。

## ○秋春制シーズン移行の件

（佐々木理事長）

- ・4月25日にJリーグの理事会があり、その後ブリーフィングありシーズン移行の説明があった。一部報道でほぼすべてのクラブが同意しているという誤報もあった。みなさまからの意見への回答の前に、「シーズン移行」とは何なのか認識を共有するために、シーズン移行に関わる情報をクラブからお伝えいただきたい。

（片桐担当部長）

（リーグの移行案）

- ・2017年にJリーグとしてシーズン移行に反対し、今後議論を継続しないと結論付けたが、外部環境の変更をきっかけに最適なカレンダーを再考していく方針となった。主にACLのスケジュール変更が影響している。様々な観点からのカレンダーの最適化を図りたいとの意向。2023年中にも決議をしたいとJリーグは考えている。各カテゴリーで議論を進めている。
- ・現状のリーグ戦は2月中旬に開幕、12月の閉幕としている。変更案では7月下旬もしくは、8月上旬に開幕、5月下旬ないし6月上旬に閉幕するスケジュールとなっている。
- ・中断期間は12月末から2月上旬まで。仮のカレンダー案では、2月の試合が増える。12月下旬にも平日含めた試合が発生する。6月7月は1試合しかない。天皇杯やカップ戦について、情報は加味していない。
- ・シーズン移行によってACLとのスケジュールとはマッチしてくることが確認。

(移行リスク)

- ・クラブ内やJリーグとの会議のなかでシーズン移行に伴うリスクについて協議をしている。仙台は今年も2月に積雪があった。ピッチのみならず客席スタンド、駐車場、エントランス、階段にも積雪があり安全を確保できない状況だった。除雪も含めて、試合開催が困難と感じている。
- ・芝生への悪影響もある。冬芝と言っても12月から3月の気候は生育に適さない。維持が困難となり、維持の管理コストの増加も想定される。夏の中断期間も他団体の利用あるためスタジアム全体の稼働が増え、養生期間も確保できない。
- ・観戦環境に関しても冬の来場者の減少に影響が大きい。スタジアムの環境改善を行った場合もイニシャル、ランニングともにコストがかかる。配管設備の凍結リスクが増え、トイレが使用できなくなる可能性も増える。他団体とのスタジアム利用の調整時期がズレる。
- ・除雪による芝へのダメージ、雪かきの人員確保問題、設備に投資すればコストがかかる。来場方法についても公共交通機関による計画運休や渋滞、事故リスクが増える。冬期はアウェーで開催すればとの声もあるが、ホームとアウェーの公平性の担保ができなくなる可能性がある。
- ・練習場も積雪がありトレーニングできない。全天候型の練習場の確保も費用がかかる。どの団体が費用を負担するのか。全天候型の会場のほとんどが人工芝で、選手への負担が大きい。
- ・時期のズレ、選手契約や学校の年度のズレも懸念している。

(佐々木理事長)

シーズン移行について、事前質問いただいた皆さんは、クラブとして問題認識をもっているのか、という心配されているのだと思う。今の説明を踏まえて大部分については問題意識があると認識していることが分かっていたと思うので、個別の質問についての回答は省略し、追加質問をお聞きしたい。

【質問】

選手はシーズン移行についてはどのような考えを持っているのか。

【回答】

(片桐担当部長)

当クラブの選手とはまだダイレクトにコンタクトを取っていない。議論が進んでいく中で東北のクラブを経験した選手の貴重な意見としてヒヤリングを行っていきたい。

(佐々木理事長)

4月25日のメディアブリーフィングのなかで、選手会とJリーグがコンタクトは取っていることについては発表があった。結論的な話や具体的な内容までには進んでいないとのこと。

【質問】

シーズン移行のメリットはクラブとしてどうとらえているか。

【回答】

(片桐担当部長)

Jリーグからは、メリットとしてはACLとのスケジュールが一致すること、暑い期間の試合開催の回避、欧州とのシーズンが一致をあげられている。

当クラブとしては課題を出している。メリットに関しては当クラブとしては明らかなものはない。

(佐々木理事長)

J1のトップレベルのチームはメリットと考えるかもしれないが、ACLに出場できないクラブ等はデメリットと考えるであろう。クラブによってポジショントークになっている。

**【質問】**

J1のトップチームは賛成すると思います。当クラブはデメリットと感じているかと思うが、移行に合わせてどのようなオプションを持っているのか。

**【回答】**

(板橋社長)

20年来の課題検討と聞いている。2017年に検討を行わないと結論付けていたが、再検討している。60クラブあるなかで影響の度合いはそれぞれ違う。全体の合意形成を図ることは非常に難しいと思う。とはいえ色々なオプションを考えていく必要がある。現場レベルで課題があることに声を上げていくことは当たり前のことだと思う。

最終的な結論はどうなるか分からないが、クラブとしては声を上げていく、ということ。

**【質問】**

日程について、山形がアウェー3連戦を現在行っているが、シーズン移行となった場合に当クラブが例外規定として該当するのか。

**【回答】**

(片桐担当部長)

シーズン移行によって、積雪クラブがどこに該当するかは明確に現段階ではわかっていない。複数クラブが積雪クラブに該当した際に公平性が担保されるのか不明。

**【質問】**

板橋社長に質問ですが、かなりの勢いとスピードでJリーグは本件を進めていくことが想定される。当クラブのサポーターも白幕を掲出しているし、各クラブ（山形や新潟など）のサポーターが同時に掲出している。今後もこの動きが大きくなっていくと思うが、観客目線も含めてサポーターの意見を実行委員会で発言してしっかり欲しい。

**【回答】**

(板橋社長)

私も実行委員会に参加し、シーズン移行に関する議題が上がっている。スケジュールの把握や課題、問題提起も上がっている。サポーターの白幕の意見も含めて、運営会社の課題について声を上げていく。

(佐々木理事長)

4月25日のメディア会見の際にファンサポーターと意見交換についてどのように行っていくかメディアから質問があった際にJリーグ樋口フットボール本部長は「全くイメージできていないのですが」「何かしらの方法でお伺いできれば」と心もとない発言をしていた。サポーターとしては不安を感じる。是非、実行委員会で発言されることを私も期待している。

【質問】

端的に、クラブや社長としてシーズン移行が賛成なのか、反対なのか。

【回答】

(板橋社長)

課題があると考えており、Jリーグに申し上げたいと思っています。

【質問】

それは反対ということか。

【回答】

(板橋社長)

シーズン移行について、クラブとしてサポーターの方々の意見も含めて課題があると申し上げて、きちんと検討していただきたい、ということ。

【意見】

寒い中で応援することは大変だと思いう。アウェーにサポーターが移動する場合はほぼ車。冬に開催すると移動が困難になりリスクも増える。数多くアウェー行くサポーターや若いサポーターもいるので、そのことも考慮して欲しい。

【コメント】

(佐々木理事長)

考慮して欲しいとクラブは認識して欲しい。

(佐々木理事長)

画面共有

まだ市民後援会の総意にはなっていないが、現時点では私はシーズン移行に反対である。

- ・シーズン移行の可能性を協議することは反対しないが、実施ありきで協議しないこと
- ・年内に決議と言っているが、協議終了時期を予め設定するのはいかなものか
- ・実施の可否を多数決で決定しないでほしい
- ・「お金の問題」で片づけのではなく、すべてのステークホルダーの意見を十分に聴くこと
- ・試合及び練習環境整備について、降雪地域のクラブと自治体間で協議する場にJリーグも必ず参加すること

以上を近々、市民後援会のHPで公表したいと考えている。

(司会)

長い時間ありがとうございました。

以上